

## 第2回 横須賀市都市計画マスタープラン見直し検討会議 議事録

日 時：平成27年1月8日(木)15:00～

場 所：消防局庁舎4階災害対策本部室

参加委員：18名（内代理出席1名）

事務局：都市計画課、株式会社 集計画研究所

### 1. 開会

### 2. 議事（都市計画マスタープランの改定について）

・都市づくりの目標について

●事務局からの説明後、議事。

委員長 都市づくりの目標をどうすれば良いのか、都市魅力をどのように捉えればよいのかを中心に議論していきたいと思う。欠席の委員から文書で意見を頂いているので、始めに事務局からの説明をお願いする。

事務局 《委員の文書意見》

- ・全体としては都市魅力の創造や都市づくりのさまざまな施策により、急激な人口、世帯数の減少を抑制していくという方向性があり、それ自体は良い。地域資源を活かしながら、それぞれの地域の魅力を高めていく取り組みは重要である。
- ・拠点ネットワーク型の都市構造を目指すことについては、従来のような拡散型の都市構造を容認しない意味で良いと思う。
- ・しかし資料のような単純な都市構造ではなく、実際は東京湾側と相模湾側で人口密度や人口と市街地の物理環境が異なり、また、周辺市街地や郊外市街地をもっと詳細に見ていくと、市街地の物的環境や人口構成、世帯数の動向は異なるはずである。
- ・市全体の人口や世帯数が減少する中で、拠点ネットワーク型の都市構造を目指すとなると、住宅を含むさまざまな都市機能の集約が行われる拠点や市街地と、逆に人口、世帯数が減少して低密度化する市街地が発生する。どの拠点市街地を維持あるいは成長させ、どの市街地を低密度化させていくのかを検討する必要があるだろう。その際、公共交通政策との関係が重要である。また、低密度化する市街地については、低密度化することのメリットを示し（一戸建て一戸当りの面積の増加、緑の増加、住環境の向上、環境負荷の低減、防災性能の向上など）、そのシナリオ、実現施策を検討する必要があるのではないかと。
- ・資料の将来都市構造図の住居系市街地は、黄色一色で塗られているが、住居系市街地の色塗りを細分化できないか。住居系市街地でも人口、世帯数が維持・増加する地区と人口・世帯数が減少する地区があるはずである。
- ・欧米の人口減少都市を見ても、再開発や新市街地開発が行われる都市、市街地で

は人口が増加している一方で、人口減少が進む市街地もあり、メリハリがはっきりしている。横須賀市でも、もう少し具体的にメリハリを検討し、特に人口・世帯数減少が起こる市街地の前向きなシナリオ、実現施策を考えるべきではないか。

委員長 横須賀市は日本一人口が減っている状況がある。そこで、悪いものをなくすというよりも、良い魅力を伸ばそうということだが、その魅力とは一体何かというのが基本的な問いかけである。この点について、自由活発に意見を出して頂ければと思う。

委員 資料の世帯数のグラフについて、2013 年まで人口は減少するが世帯数は増加しているが、それ以降の推計値は人口も世帯数も下がっていく。世帯数が増加していくという推計はあるのだろうか。

事務局 2025 年では団塊世代の年齢が 80 歳を超えてくるということで、だんだん一人住みの率が減っていくと想定している。2025 年を境に人口減少の内容が大きく変わってくる。子どもだけでなく高齢者の人口が減っていくという推計になっている。

委員長 一世帯当りの人数を明記しておくのと、より世帯のイメージが湧きやすいと思う。

委員 資料の『都市づくりの目標』について、都市マスで子育て支援をクローズアップするのは重要だが、同時に子育て支援は、『シニア世代がいきいきとした～』ということと深く結びついている。

にこにこ笑って子育て世代の赤ちゃんに声をかけて下さるような高齢者の方は、ボランティア活動などで活躍しており、そういう方が横須賀に増えると子育て世代に優しい環境になる。そして、子育てしやすい場所は、実はシニア世代も生きやすい場所ということでリンクしてくる。資料の『都市魅力の創造』での浦賀、久里浜地区に関して、港湾機能を活かした産業拠点化について、『混雑する東京湾に入らずに対応できる物流拠点と産業拠点の魅力創造』とあり、これは輸送ハブのような形になると良いと思う。

委員長 久里浜の港湾機能についてはあまり想像できないが、具体的な根拠はあるのだろうか。

事務局 横須賀の中で港湾機能は重要な要因である。横須賀は重要港湾としても指定されているので、これから様々な展開、方向性がでてくると考えられるので、都市づくりに反映させていきたい。

委員 私は市外から横須賀市へ引越し、子育てをしてきた。保健所のイベントに参加して子育てのアドバイスを受けて助けられたが、そうしたことを知らずに悩まれている母親もいたので、情報がうまく伝わるようになると子育てがしやすくなると思う。横須賀は基地のまちのイメージがあり、望ましいイメージではないという見方もあるが、基地があることで、国籍の違う方と知り合う機会も多く、いろいろな人との

交流ができることをもっと活かさないだろうか。

インターナショナルスクールが横須賀にあれば、土地柄にも合っているし、外国の方が通うことにプラスして、英語への意識が高いところなので、地域の方も積極的に受け入れるのではないかと思う。

委員 これからの20年間で『豊かな暮らしといきいきした交流をはぐくむ都市』をつくるにはまずPDC A（計画、実行、チェック、改善）が必要である。目標としては人口減少を抑えることが狙いだが、どんな施策がどのように人口減少抑制への効果をもたらすかを20年間の計画の中で具体的に示せると良いと思う。

委員 目標がないと後々検証できないので、何年間で何人に留めたいのか具体的な目標人口を示せないか。また、現行都市マスの評価をどのように行ったのか聞きたい。

事務局 目標数は推計人口でみて約34万人と考えている。現行の都市マスの評価は、平成21年度に今の形に見直している。従来の平成8年作成時には人口が右肩上がりが増え、開発人口も想定しながら目標数値を定めることができた。見直しの時点では人口が減少する時代に入り、目標人口の設定が困難になり、拠点ネットワーク型の都市づくりの考え方をいち早く打ち出した。今回の改定では減少抑制の施策を考える必要がある。転出人口は過去から概ね変わっていないが、転入人口が落ちているので、転入に対する施策を打つ。それは20代から40代の転入が少なく転出が多い状況があり、そこをターゲットにした施策になると思う。

委員長 『都市魅力の創造』には転入が減らないようにするための効果、関連性が無いかもしれないという意見だが、事務局の今の時点での考えはどうか。

事務局 若い人に横須賀を選んで入って来てほしいが、若い人は横須賀にどんな魅力を求めているのかというと、アンケートでは自然や文化、歴史が挙がっている。これからは基地や外国人との交流をうまく使い英語教育を表に出すなど、いろいろな魅力を考え、社会減を少しでも抑えたい。

委員長 定住人口だけでなく交流人口が増えて、まちがどうなるかというストーリーも検討し議論していけると良い。

委員 都市政策研究所では将来人口の推計を継続して行っている。今は自然減の方が圧倒的に多い。転出転入の差を縮めて社会増にしても、明らかに自然減が多く、これからさらに増えていくだろう。

今、2030年ぐらいの予想をしているが、40万人の維持は不可能だと思っている。社会減への対応は、日本人の人口が底から減ってくるという考え方を基にやっぴかなくてはならない。目標を設定しても今の推計よりも人口を増やすことは難しい。

委員長 推計結果が出たらデータとして示して頂ければと思う。

- 委員 『都市魅力の創造』の図は、横須賀市を地域的に細分化して、その地域の特性から魅力をつくるということが良いと思う。ただし包括的な魅力として教育や学術というものもある。個別の魅力と全体の持つ魅力を重層的に捉えて発掘していった方が良いと思う。
- 委員長 その点は事務局の方で把握して今後盛り込んでいくことは可能だろう。学術的や知識に基づいた内容を入れた方が良いということにつながる。
- 委員 地域力を生かした部分と土地利用誘導がつながっているが、これは地域力をどのように生かしたものなのだろうか。立地誘導や土地利用は地理的な特性を生かすことだと思う。
- 委員長 より包括的に今の意見に沿った形で、もう一度見直して頂ければと思う。
- 委員 横須賀の魅力について、資料に『シニアの世代がいきいきと暮らせるまちづくり』とある。谷戸に住む自分の親を見ていると、その地域で小さい時からずっと暮らしてきたから愛着があるが、近くの商店がなくなり、平成町などの商圈へは車が使えないから買い物に行けず、一人暮らしも増えていく。  
もう少し地域の商店街、駅に根付いた商店街についての記述を入れてもらえるとありがたい。また、地元の商店街をどう生き残らせていくかをマスタープランの中に位置づけてほしい。
- 委員長 都市魅力を議論することと今の意見は並行しているのか、また違う側面なのか、事務局の捉え方を説明して頂きたい。
- 事務局 谷戸に住み暮らしていくということでは、色々な谷戸があり一概には括れない。駅に近く便利な谷戸は、若い人も住めると考えている。逆に駅から離れた不便な谷戸は、長い時間の中で淘汰されるエリアになると考えている。地元の商業については、施策として中心市街地を活性化しないと勢いがつかないのではないかなと思う。商店街の組織の若い人たち、青年会議所と一緒に中心市街地や地元の商業を復活させたい。
- 委員 淘汰される地域については実際に決めていくことが必要な状況が既にあるのではないかな。昔は谷戸の奥の方でも魚屋や八百屋があったが、今は閉めてしまった。人を呼ぼうということだけでなく、少しずつ消していく場所を示すという考えがあるのか、聞きたい。
- 事務局 将来的に、国の立地適正化計画の居住誘導区域の設定を考えながら、そうした方向は都市マスに書いていきたい。
- 委員 商店街については、時代の趨勢によって商店街の役割や環境が変わり、それに合わ

せ行政と商工会議所が一体となり展開してきたが、現状はなかなか衰退に歯止めがかからない。

都市マスの中で改めて横須賀の魅力を発掘しながら、商店街という単体ではなく、地域コミュニティの役割を商店街がどう担っていくかを考える必要がある。

委員長 商店街だった場所が今後も商店街でなければならないという理由はない。例えば、子育ての拠点といった場所が足りないというニーズに対応するだとか、高齢者の居場所づくりなど可能性はいろいろあると思う。

委員 『子どもが主役になれるまち』ということでは、教育が重要なファクターになってくる。横須賀ならではの特色ある教育として英語がある。教育を重視しているまちとして、外から転入する可能性を高くする側面も出てくる。

委員 『都市魅力の創造』の目標に『子育てがしやすいまちをつくる』とある記載の内容は、まち中に偏っているのではないかと。伸び伸びと子育てできる海などの自然環境の中でのハード面も考えられると思う。

『子どもを産み育てやすいまちづくりへの取り組み』に対して病院、乳幼児健診の医療体制が不十分であるというアンケート結果になっているが、子育て世代で医療に関して良いと言っている方もいる。5年前に子育てをしていた方のアンケート結果と、つい最近おさんを産んだ方の感じ方は違う傾向になるという気がする。他の都市と比べた医療や子どもに関する施設の客観的なデータを踏まえ、医療、保育関連施設の立地誘導は考えていかなければならないと思う。

事務局 今回の考え方は、コンパクトな拠点に集まることをベースに考えている。例えば、都心居住していくときに、都市機能の一つとして医療を挙げている。

委員 医療ということでは、産婦人科は何年か前に比べて落ち着いてきた感じはする。しかし、子どもの医療について、個別の医院がかなりあるが、休診日の情報が一覧で無い。その情報がネットワークされるとありがたい。

子育てがしやすいということに関して、病院や商業施設を利用する場合、駐車場があり停めやすいかを重視している。商店街でも車利用の対応が充実していれば、商店街全体として使われやすくなる可能性はあると思う。

事務局 自家用車利用の対策も十分に行っていく必要があると考えている。ただ、横須賀の都市マスの中では『歩いて暮らせる環境づくり』ということで、過度に自家用車に頼らない生活スタイルの検討も、併せて考えていく必要があるだろう。

委員 横須賀で「ソレイユの丘」や「すかなごっそ」が賑わっているが、土日に渋滞が起きるほどで、久里浜の大型店では雨の日は渋滞で入ることもできないといった状況がある。子どもを二人連れて電車に乗ることは大変なので車を使いがちで、車が利用できる施設が混雑することは自然だと思ってしまう。

委員長 隠れたテーマとして、これほどの車社会なのに車が利用できない状況がある。魅力を発信し賑やかな場所にしたいと言っても、車が利用できなければそうならないのではないか、その対策はないのかという意見なので、追々そうしたことを踏まえて検討して頂ければと思う。

委員 都市魅力の創造に、ビジネスをテーマとして強く打ち出して頂きたい。20代から40代の人口が増えるかどうかは雇用の場があるかどうかにかかっていると思う。「中心市街地の賑わいを演出」の中に、大きくはない会社を集められるような仕掛けづくりが入れられると良いと思う。

委員長 どこかにそうした雇用の考え方を入れたい。

委員 県立大学で研究会や学会を行うときに、参加者の中に千葉の金谷からフェリーに乗り横須賀に来る方が、割といると分かった。陸路だけでなく、フェリーの運航回数を検討するなど、水路を活用して人の流れをつくる戦略を港湾機能の中に入れても良いのではと感じた。

中高生をもつ世代の方が、横須賀に住みたいと思えるようにすることが必要だろう。横須賀には、英語を外国の方との交流の中で学べるメリットがある。実学的な英語教育や自然と結び付けた環境教育を取り込み、学園都市のようなものがつくられると、それも横須賀の魅力の一つになり、中高生をもつ世代を引きつけるのではないかな。

委員 入り込み客数の増加という観光面のプラスの部分が、住宅、生活部分の定住促進に結びつかない。

土日に追浜から横須賀の中心市街地へ国道16号を使い出ようとするとうっ滞が多い。観光客の増加は、住んでいる私たちの普段の生活に、うっ滞などの様々なデメリットももたらしている。観光面も商業面も集約されている市街地を通らないと、いろいろなところへ行けない現状がある。

基地をプラスのイメージにしていくということでは、観光面では成功している。しかし、ここでも基地のイメージは定住促進と結びついていないのが現状だと思う。基地はアメリカのベースだけではない。自衛隊や自衛隊教育隊、防衛大学校も含めて軍関係施設が横須賀に集約されている。アメリカのベースだけでなく、自衛隊の方々も含めた歴史や文化など、横須賀らしさを体験してもらいたい。

### 3. その他

- 事務局より、横須賀市マスタープラン検討会議意見等提出シートについての説明と依頼及び次回スケジュールについての説明を行った。

### 4. 閉会